

P4-6

院内がん登録から見た希少がんの現状



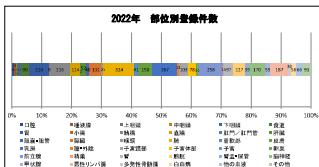
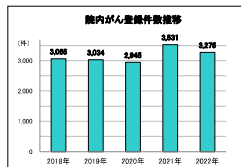
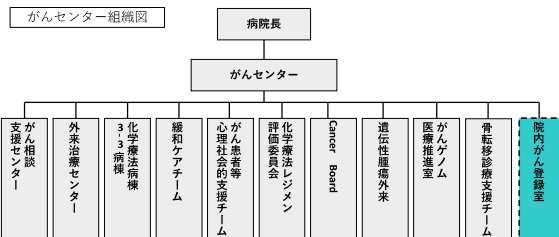
坂口 花菜¹⁾、大瓦 三香¹⁾、勝沼 侑香¹⁾、小船 光貴¹⁾、鶴見 有里彩¹⁾、
星野 寛道²⁾、金子 博子²⁾、佐々木 美沙²⁾、
永根 基雄³⁾、廣中 秀一⁴⁾

- 1) 杏林大学医学部付属病院院内がん登録室（院内がん登録室（診療情報管理室））
- 2) 杏林大学医学部付属病院院内がん登録室（診療支援室）
- 3) 杏林大学医学部付属病院がんセンター（脳神経外科）
- 4) 杏林大学医学部付属病院がんセンター（腫瘍内科）



杏林大学医学部付属病院の概要

- ・所在地 東京都三鷹市
- ・特定機能病院
- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・二次医療圏 北多摩南部
- ・許可病床数 1,137床
- ・1日平均外来患者数 1,978人
- ・平均在院日数 11.8日



目的

希少がん※は一般的ながんと比較し、症例数が少ないことから、情報提供等も難渋することがあるのではないかと。そこで、院内がん登録データを用いて当院の現状を調査した。

※「希少（きしょう）がん」とは、『人口10万人あたり6例未満の「まれ」な「がん」、数が少ないがゆえに診療・治療上の課題が他に比べて大きいがん』
引用：国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院希少がんセンターHP

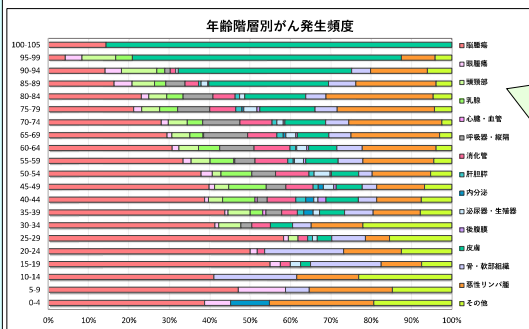
方法

分類は、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院希少がんセンターの資料を参考とした。

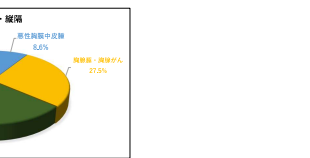
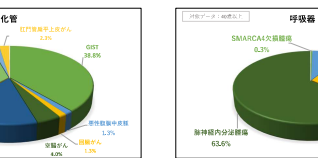
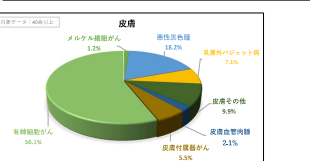
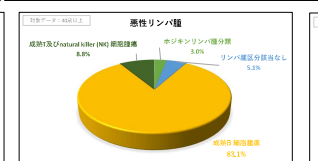
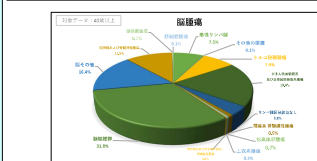
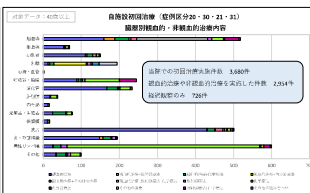
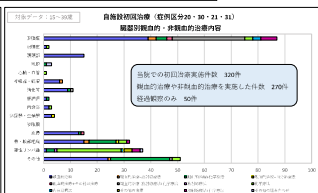
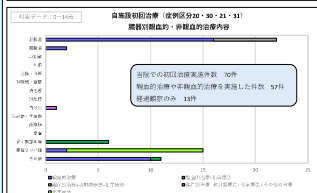
当院院内がん登録データ
(2016年～2022年症例)
21,715件より希少がんのみ抽出



結果



当院の希少がんは4,962件で、小児（0～14歳）68件、AYA（15～39歳）417件、40歳以上4,477件となっている。
40歳以上のデータにおいては、脳・脊髄領域が最も多く、次いで皮膚領域、呼吸器・縦隔領域、消化管領域の順となっている。
また、罹患年齢では70歳代での罹患が最も多い。希少がん登録されている患者さんの約60%は高齢者であることも分かった。



結論

- ◆一般的に全体の20%程度が希少がんであるといわれている中で、当院の登録状況は平均的であることが分かった。
- ◆紹介患者が70%を占めており、地域医療においても一定の役割を果たしていることが考えられる。
- ◆今後は、希少がん診療の動向を理解し、院内の他部署との情報共有・連携を行いながら、患者さんが望む情報提供の在り方を考えていきたい。

【日本がん登録協議会 第33回学術集会】当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。